

From : 北野幸伯

★2025年の日本政治、最大の注目点は？

ダイレクト出版

ルネサンスメルマガ読者の皆様、こんにちは！
北野幸伯です。

今日は、
日本の政治で起こっていることの本質
についてお話しします。

2024年、
日本の政治は大きく動きました。

8月14日、岸田総理が、
「9月27日に実施される
自民党総裁選に出ない」と宣言した。

岸田さんは、外交、安全保障政策で、
国際的に評判のいいひとでした。

しかし、国内では、
いわゆる「裏金問題」で支持を落とし、
事実上の退陣に追い込まれたのです。

9月27日に実施された自民党総裁選挙では、
決選投票で石破さんが高市さんを破り、
自民党総裁、首相になりました。

ところが、
10月27日に実施された衆議院選挙で、
石破自民党は大敗。

自民党公明党の連立与党は過半数割れし、
非常に不安定な政治状況になっています。

なぜ、自民党は人気がないのでしょうか？

表向きの理由は、「裏金問題」です。

確かにその通りでしょう。

しかし、それが唯一の理由ではありません。

もう一つの超重要な原因は、
石破自民党が【 増税クソメガネ 】であることです。

思い出してみてください。

岸田さんの人気なくなった理由は、
裏金問題だけでしょうか？

違います。

岸田さんは、裏金問題の前から、
【 増税クソメガネ 】とあだ名をつけられ、
国民から忌み嫌われていたのです。

岸田さんは、
国民負担を【 年3兆円分 】増やそうとしました。

具体的には、

- ・ 防衛増税

(= 所得税、法人税、たばこ税 増税) 1兆円

- ・ 少子化対策増税

(= 医療保険料に上乘せ) 1兆円

- ・ 脱炭素増税

(= 化石燃料賦課金、有償排出量取引導入) 1兆円

【 増税クソメガネ 】と呼ばれた
岸田さんがやろうとした増税、
国民負担増はこれだけではありません。

長くなりすぎるので、
詳しくはこちらをご覧ください。

@必読 岸田さん驚愕のステルス増税リスト



<https://www.primecg.co.jp/20240116125010>

そして、石破さんは、岸田さんの増税、
国民負担増を全部行う意志を
示しているだけではありません。

彼は、「金融所得税増税」「法人税増税」
「消費税率のさらなる引きあげ」に言及しています。

石破政権が長期化すれば、
国民負担はどんどん増えていき、
国民はますます貧しくなる。

そして、「暗黒の40年」が確定します。

だから、
石破大増税自民党は、選挙で負けたのです。

自公が過半数割れし、少数野党になった。

そのおかげで、増税がやりにくくなりました。

だから、石破大増税自民党が負けてよかったのです。

▼戦いの本質は？

今日本国内で起こっている戦いの本質は、
何でしょうか？

目先だけ見ると、
103万円の壁を178万円まで引き上げたい国民民主と、
それに抵抗する石破自民の戦いに見えます。

もちろん、これは「その通り」でしょう。

しかし、大局的にみると、
もっと大きな戦いが起こっているのです。

なんでしょうか？

皆さん、なぜ日本は
「暗黒の30年」だったのでしょうか？

なぜ日本の一人当たりGDPは、

世界2位から32位まで落ちたのでしょうか？

その理由を、
大部分の日本国民は知らなかったのです。

みんな、
「日本企業の経営が時代遅れだから
アメリカ式にすればいい」などといい、
ちっともうまくいかなかった。

それにしても、
80年代絶好調だった日本企業が、
90年代いきなりダメになるなんておかしいですね。

しかし、
3冊の本がベストセラーになることで、
多くの日本国民が【 暗黒の30年の秘密 】を理解したのです。

3冊のベストセラーとは、

◆ 『安倍晋三回顧録』



詳細は↓

<https://amzn.to/3W4sX0C>

◆ 『安倍晋三 vs 財務省』 田村秀男、石橋文登



詳細は↓

<https://amzn.to/4jgPzVR>

◆『ザイム真理教』 森永卓郎



詳細は↓

<https://amzn.to/3BSkVRG>

この3冊は、
いずれも2023年に出版されています。

たくさんの方が、
これらの本を読むことで、覚醒したのです。

ちなみにこの3冊、まだ読まれていない方は、
絶対読んだ方がいいです。

▼【 暗黒の30年 】の【 真因 】

さて、
この3冊を読むと何がわかるのでしょうか？

日本の政治構造の本質は、たった二つです。

1. 財務省が、経済音痴の総理大臣を操っている

これは、自民党の総理だけではありません。

財務省は、経済音痴の民主党総理
野田さん（現立憲民主党党首）を操り、
消費税率を5%から10%まで引き上げる
「3党合意」をさせました。

2. ところが財務省も経済音痴なので、
歴代総理が財務相の言う通りにやっていたら
【 暗黒の30年 】になってしまった。

これ、信じられない人も多いと思います。

「だって、財務省って東大卒ばかりでしょ？」と。

元財務官僚で、東大理学部数学科、
東大経済学部経済学科を卒業された高橋洋一先生によると、
財務官僚のほとんどは確かに東大卒ですが、
【 法学部出身 】が多く、
【 財政も経済も素人 】なのだそうです。

どうなのでしょう？

私にはわかりません。

しかし、
歴代総理が財務省のことを聞きつづけていたら
【 暗黒の30年になってしまった 】のは、絶対的事実です。

詳細は、3冊の本を読んでいただくとして、
ここでは、超簡潔に流れを追ってみましょう。

まず、1990年3月、大蔵省（現財務省）は、
不動産取引の総量規制（行政指導）を行い、
バブルを崩壊させました。

日本の実質GDP成長率の推移をみると、
1990年4.84%、1991年3.52%、
1992年0.9%、1993年マイナス0.46%。

バブル崩壊の影響が思い切り数字に表れています。

しかし、知らない人が多いと思いますが、
その後の数字もみてください。

1994年1.08%、1995年2.63%、1996年3.13%

あれれ？

日本経済の成長が年々加速してきています。

実をいうとバブル崩壊の影響は、1993年が底で、
その後は復活軌道に乗っていたのでは？

その後を見てみましょう。

1997年0.98%、1998年マイナス1.27%、
1999年マイナス0.33%

復活基調にあったのに、またダメになりました。

何が起こったのでしょうか？

そう、橋本総理が、大蔵省の要求どおり、
消費税率を3%から5%に引き上げたのです。

これで【 暗黒の10年 】が確定しました。

ちなみに橋本総理、
後にこの決断を大いに後悔されたそうです。

2000年代。

小泉内閣は2001年から2006年までつづく、
日本には珍しい長期政権でした。

財務省は、小泉さんを説得し
「さらなる消費税引き上げ」を試みるも、
拒否されてしまいます。

しかし、財務省は、
小泉さんに「緊縮財政」を行わせることに成功し、
【 暗黒の20年 】が確定しました。

財務省は2011年、東日本大震災を利用し、
国民の抵抗なく「復興増税」することに成功しています。
(当時は菅内閣)

その後財務省は、経済音痴の野田さん
(ちなみにこの方、元財務副大臣、財務大臣)を説得し、
「消費税率を5%から10%に引き上げる」
民自公の「3党合意」を実現させました。

そして、2014年消費税率は5%から8%に、
2019年8%から10%に引き上げられ
【 暗黒の30年 】が確定したのです。

これが、【 暗黒の30年の事実 】です。

信じられない方は、上3冊を熟読してください。

なんといっても史上最長政権をつくりあげた
安倍元総理自身が告白している。

説得力があります。

▼2025年、国民はどう動くべきか？

はっきりわかったのは、
「財務省にコントロールされている首相だと、
日本の暗黒時代は永遠につづく」ということです。

日本の一人当たりGDPは
1988年世界2位だったのが、
2023年は32位でした。

35年間で30位順位を下げるって、
申し訳ないですが、
「どんだけ無能なんだ」と思ってしまいます。

今年日本国民は、どう動くべきなのでしょう？

一つは、石破大増税自民党を支持しないことです。

7月の参院選で大敗すれば、
石破さんは辞めるでしょう。

そうすると、
「積極財政派」「反増税派」の高市さんが
総理になるかもしれません。

自民が全部悪いのではありません。

「増税派」が悪いのです。

もう一つは、「手取りを増やす」政策を掲げる
国民民主党を支持することです。

同じ野党でも、立憲民主党の党首野田さんは、
消費税率を5%から10%に上げることを決断した
「大増税元総理」なので信用できません。

というわけで、2025年の日本は、
これからも暗黒時代がつづくのか、
それとも暗黒時代を終わらせて復活の時代がはじまるのか、
とても「重要な戦いの年」になるでしょう。

個人的には、今後数年で暗黒時代は終わると思います。

しかし、終わる終わらないは、私たち有権者次第です。